



2015(平成27)年10月号

## 他力本願

秋になりますと、皆さまは何を連想されるでしょうか。読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋などさまざまですが、私は何と言っても食欲の秋ですね。といつても、大食漢ではありませんので、秋刀魚や松茸、銀杏など秋の味覚をいただきながらの晩酌は最高です。

さて、浄土真宗において大切なお言葉である「他力本願」ですが、世間一般では、残念ながら他人の力をあてにして目的を達成するという悪い意味で使われることがほとんどです。また、「他力」に対する言葉として「自力」があります。世間で主流の考え方としては、「自力」自分の力で目的を達成することを良しとすることが多いのではないのでしょうか。

もともと自力と他力は仏教用語ですが、本来の意味を離れて用いられるようになり、一般化してしまったのです。では、本来の意味とはどのようなものかと言いますと、

「自力」＝自分の能力、器量をあげて懸命に修行に励み、戒律を守ることによって、さとりに到達する道

「他力」＝阿弥陀如来が、一切の人々を救うと説かれた教えを信じ、さとりに(救い)に至る道

ということになります。

宗祖親鸞聖人もはじめから他力の教えに帰依されたわけではありません。9才で得度された後、比叡山で20年間ご自身の力で徳を積み、修行を重ねてさとりを得ようとされました。しかしながら、どれだけ修行を重ねてもさとりの境地には至らず、かえって悩みが深まっていたばかりだったのです。

その中で出遇わ

れたのが、阿弥陀如来にこの身をおまかせし、念仏ひとつで救われていく道をお示しになられた法然聖人でした。「他」とは、他人のことではなく、阿弥陀如来のことを示し、「力」は他人の力ではなく、阿弥陀如来の導き、はたらきを意味するのです。親鸞聖人は主著である『教行信証』という書物の中で、このように仰っています。

「他力といふは如来の本願力なり」



阿弥陀如来は48の願いをおこして仏とられました。その第18番目の願いを本願といいます。その本願を要約すると、「我にまかせよ、我が名をとなえよ、必ずあなたを浄土に生まれさせて仏にさせるぞ」という願いなのです。

そして、私たちがお念仏申すのは、阿弥陀如来が「南無阿弥陀仏」のお呼び声となって私たちにおはたらきくださるのです。

親鸞聖人は、人間としての煩惱、心の汚れがなくならない私たちが、自力の仏道でさとりを開くことが不可能であるという深い洞察力のもとで、阿弥陀如来の教えに生きる道を決断されたのです。

10月18日には当会館におきまして、常例の法座がございます。ご一緒に阿弥陀さまのご本願のおいわれを聞かせていただきましょう。



# 仏事あれこれ

## 一口法話

8月末に家族が東久留米に参りまして、ようやく(とうとう?)家族揃っての生活がはじまりました。

私が4月に東久留米に単身で来まして約半年の間、離れ離れの生活で、静かに暮らしておりましたが、家族(妻と子ども2人)が来てからというもの大変賑やかになりました。

6月に生まれたばかりの長男は、泣くことが仕事とはいえミルクやおむつ、寝かしつけることで大変ですし、5才の長女は東久留米市内の幼稚園に転園してすぐに馴染み、幼稚園から帰ってきて元気がいっぱいにお寺の中を走り回っています。

私が事務所で仕事をしていても、「おとうさーん」と元気な声で呼びかけてまわりついてきます。私が「あつちへ行って遊んでいなさい。」と注意をすると、今度は「おかあさーん」と妻の方へ行き、困らせています。以前会報にも掲載しましたが、生まれた時は984gでどうなることかと思いましたが、元気に育ってくれて嬉しい反面、少しは大人しくならないかと

思っています。

さて、私たちは自分の親のことを「お父さん」「お母さん」と呼びます。いつから呼ぶようになったかはわかりません。それは、生まれる前より親の方から子どもに対し私があなたの「お父さん」ですよ、「お母さん」ですよと呼びかけているからなのです。阿弥陀さまのはたらきは、私たちが気づくよりも先に「我にまかせよ、我が名をとなえよ」とはたらいてくださいます。私たちが「南無阿弥陀仏」とお念仏申すのは、自分から申しているのではなく、阿弥陀さまより先手のはたらきがあるからなのです。9月の彼岸会ではお参りの皆さまに家族を紹介させていただきました。これからも、家族一同よろしくお願ひいたします。



## 仏事のQ&A

Q. 法事のお飾りはどうする？

A. まず、灯・香・華のお供えですが、普段は三具足(蠟燭立、香炉、花瓶)のところを、できれば五具足(蠟燭立一対、花瓶一対、香炉)にします。

蠟燭の色は、三回忌まで白色、七回忌以降は朱色の物を用い、供花や供物の色も三回忌まではなるべく赤色を避けてお飾りするようです。

また、花瓶や香炉を置く前卓には「打敷(うちしき)」という布を敷いて、仏前を飾ります。

このほかお仏飯は言うに及ばず、餅、菓子、果物などをお供えし、大きな供物類はお仏壇の脇などに台を設けて供えましょう。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

### 平成27年 年回法要表

年忌法要	死亡年
1周忌	平成26年
3回忌	平成25年
7回忌	平成21年
13回忌	平成15年
17回忌	平成11年
23回忌	平成5年
27回忌	平成元年
33回忌	昭和64年
37回忌	昭和58年
50回忌	昭和41年

# 9月行事の様子

## ★第35回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 9月18日(金)

戦後70年の節目ということで、2000名を超える多くの方が参拝されました。  
ご門主さま御導師のもとお勤めされ、当会館からは7名の方が参拝されました。



↑ 東久留米会館  
参拝団



↑ 法要・会場の様子 ↑



↑ 平和宣言

## ★秋季彼岸会 9月23日(水)

13:00より法要「仏説阿弥陀経」を皆さまと一緒に勤めし、ご講師  
小林教善師よりご法話をいただきました。33名の方がお参りされました。

↓ ご講師の  
小林教善先生



↑ 9月のお誕生日おめでとうございます。  
これからも元気にお参りください。

↓ 法要の様子  
『仏説阿弥陀経』



## お知らせ *information*

### 築地本願寺報恩講参拝のご案内

日時：2015年11月15日(日)

10時00分からの日中法要に参拝

場所：築地本願寺(東京都中央区築地3-15-1)

内容：法要参拝後、お斎弁当(昼食)をいただきます。

※参拝をご希望の方は、当会館までお申し込みください。

現地集合・現地解散となります。





## ▶ 10月の行事予定

### キッズサンガ子ども会

10月3日(土) 午前10時～

普段は捨ててしまうような物を使って、  
工作をします。小中学生対象となります。  
当日参加も大歓迎です。

### 親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

10月16日(金) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？  
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

### 常例法座

10月18日(日) 午後1時～

ご講師 福井 学誠 師  
(埼玉県 吉見布教所浄泉寺)

お気軽にお参りください。



## ▶ 11月の行事予定

### おみがき・境内清掃

11月7日(土) 午前10時～

本堂の仏具をきれいに磨き、境内の清掃を  
します。ご協力よろしくお願ひいたします。

### 報恩講

11月23日(月) 午前10時～  
午後1時～

ご講師 五十嵐 大策 師  
(東京都 玄忠寺)



親鸞聖人のご遺徳を偲び、お念仏申す人生を  
歩ませていただく気持ちを新たにす法要です。

## 9月16日(水) 境内清掃のお手伝い

大嶋 弘様	大嶋 貢子様
神谷 正弘様	神谷 玲子様
森澤 忠和様	北川 康雄様
西 ユリ子様	田口 康子様
渡辺 タキ子様	高田 テルハ様
臼井 一朗様	臼井 美代子様
加藤 吉長様	小渡 幸江様

石田 竹男様

### お仏飯米のご進納

ありがとうございました。

### 編集後記

先日、8月のサマースクールに  
参加した子どもが、友達を連れて  
遊びにきました。我が家の長女も  
交えて遊んでいる姿を見て、たく  
さんの方が集うお寺にしていき  
たいと思いました。(安)

東久留米会館会報 「ともしび」  
第234号

発行日 2015年10月1日

発行者 安邊 泰教

住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30

電話 042-474-6787